

報道関係者向け 参考資料

「治療と仕事の両立」に関する全調査結果

ヤンセンファーマ株式会社「ADA ワークシックバランスプロジェクト」

ADA (Alliance for Diverse Abilities) Survey

調査概要

■ 調査期間：2022年8月18日～9月2日

■ 調査主体：Alliance for Diverse Abilities (ADA)
アライアンス・フォー・ダイバーズ・アビリティーズ

ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの従業員で構成される Employee Resource Groupの1つで、日本では2019年に発足。障がいの有無に関わらず、ともに働く社員が、それぞれの多様性を認め合い、活かすことで最高のパフォーマンスを発揮できる職場環境を形成することを目指し取り組みを行う。

■ 回 答：ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ社員 1,310人

■ 調査方法：インターネット調査

職種

回答者の職種は、営業職（48.2%）、非営業職（51.8%）。

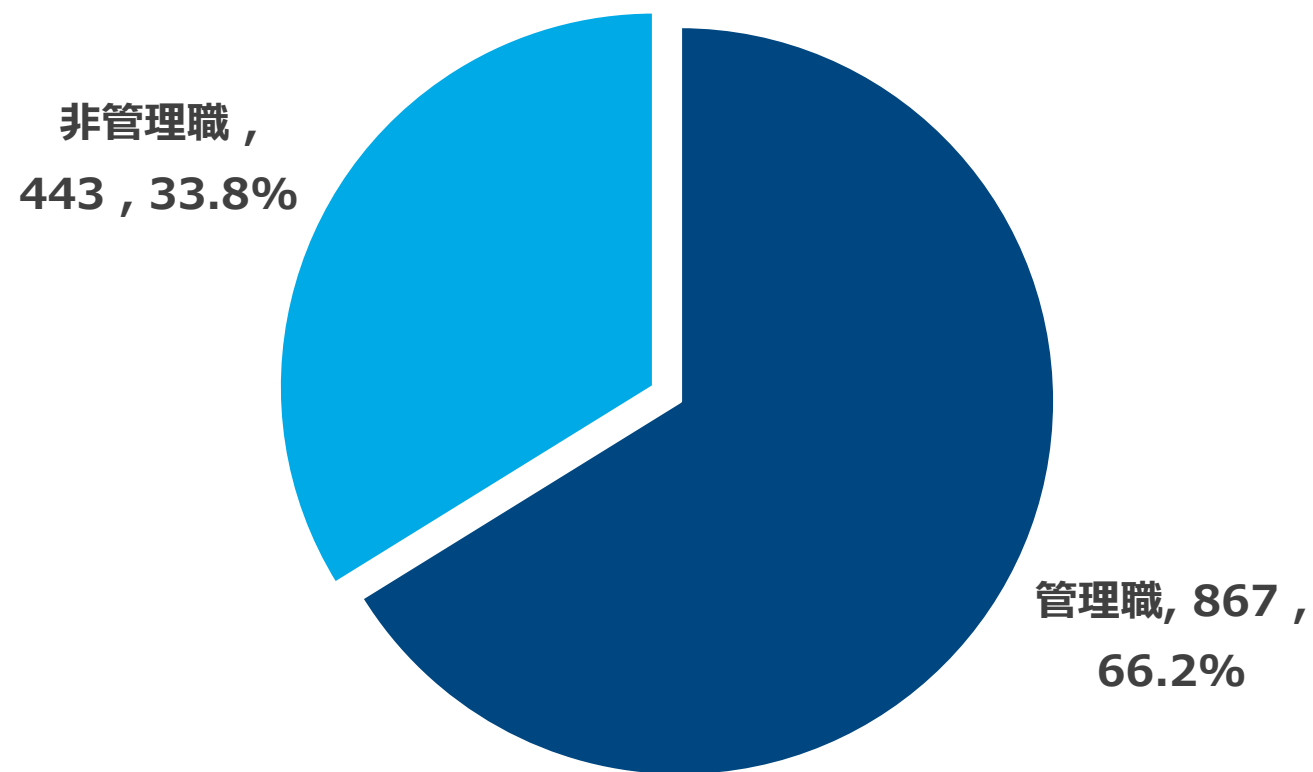
Q: 職種を教えてください。（単一回答）（n=1,310）



非管理職と管理職の割合

回答者の役職は、管理職（66.2%）、非管理職（33.8%）。

Q: 役職を教えてください。（単一回答）（n=1,310）

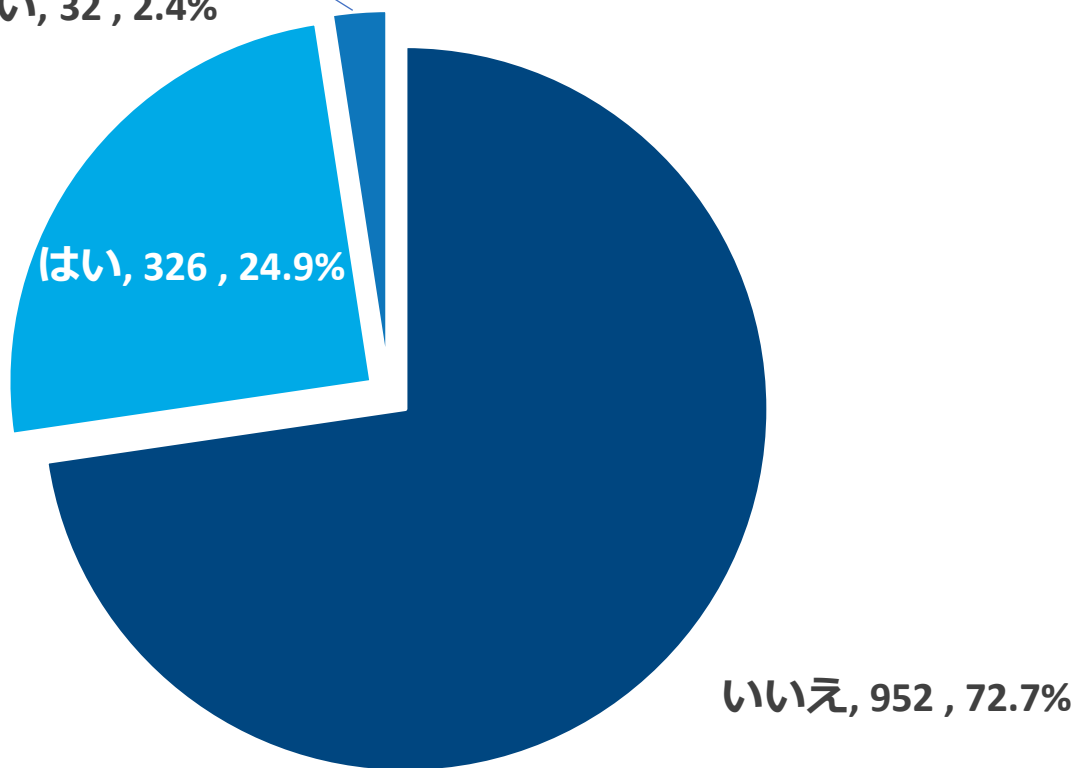


病気・障がいの有無

現在、病気または障がいがあると回答した人は、358人（回答者の27.3%）。

Q: あなたは現在、定期的な通院や治療が必要な病気（医師から診断されたもの）、もしくは肢体・聴覚・視覚・発達等の障がいがありますか？（単一回答）（n=1,310）

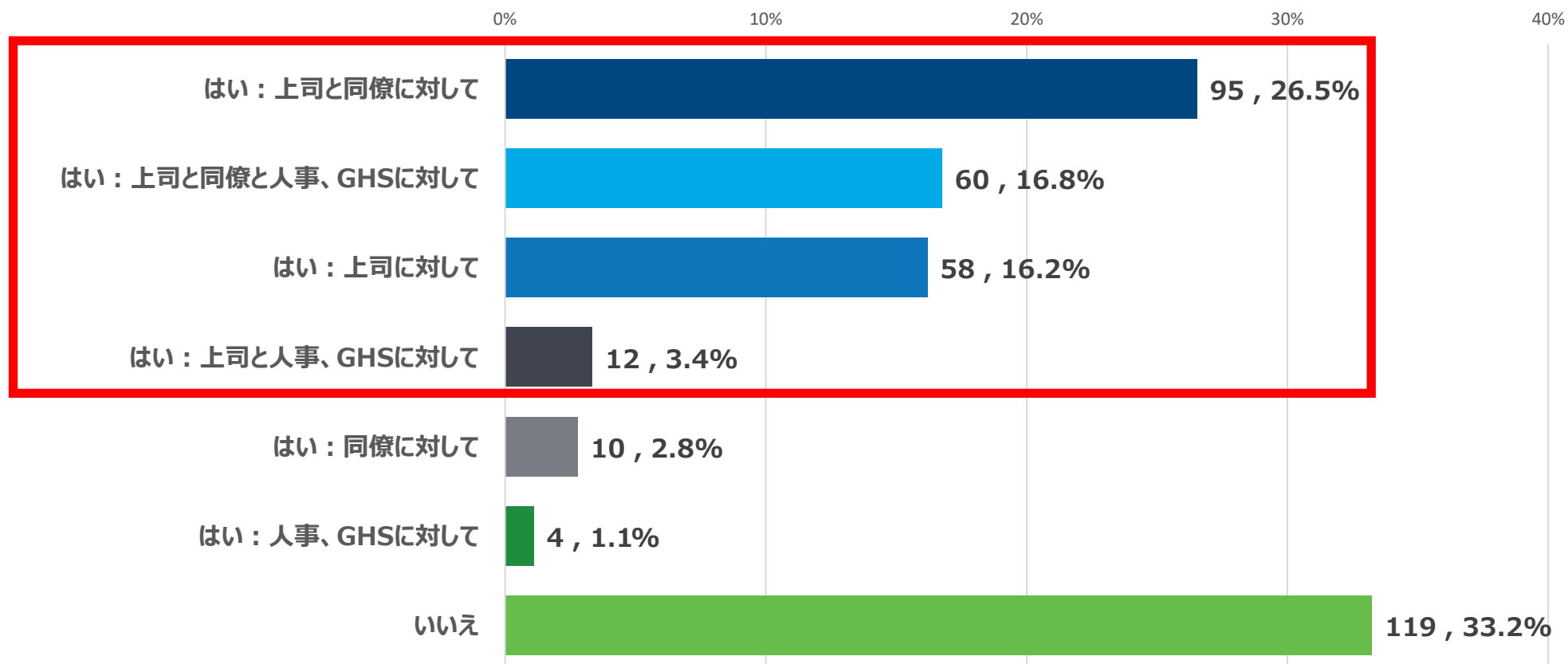
障がい、病気はあるが現在は定期的な治療や通院はしていない, 32 , 2.4%



自身の病気・障がい在职場に伝えたか

病気または障がいがある人（358人）のうち、62.9%は「上司」にそのことを伝えている。

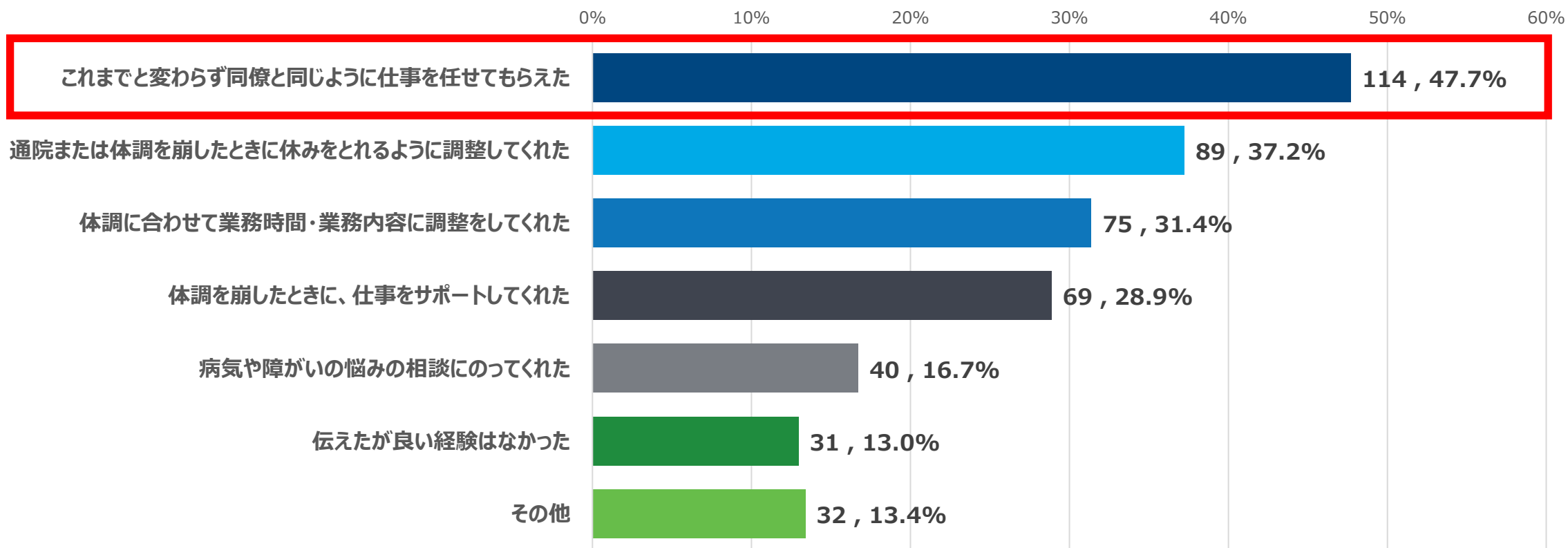
Q: あなたはその病気または障がいを職場の方（上司、同僚、または人事等）に伝えていますか。（単一回答）（n=358）



病気・障がい職場に伝えて良かったこと

病気または障がいを職場の方に伝えて良かったことで、最も多かったのは「これまでと変わらず同僚と同じように仕事を任せてもらった」で、47.7%。

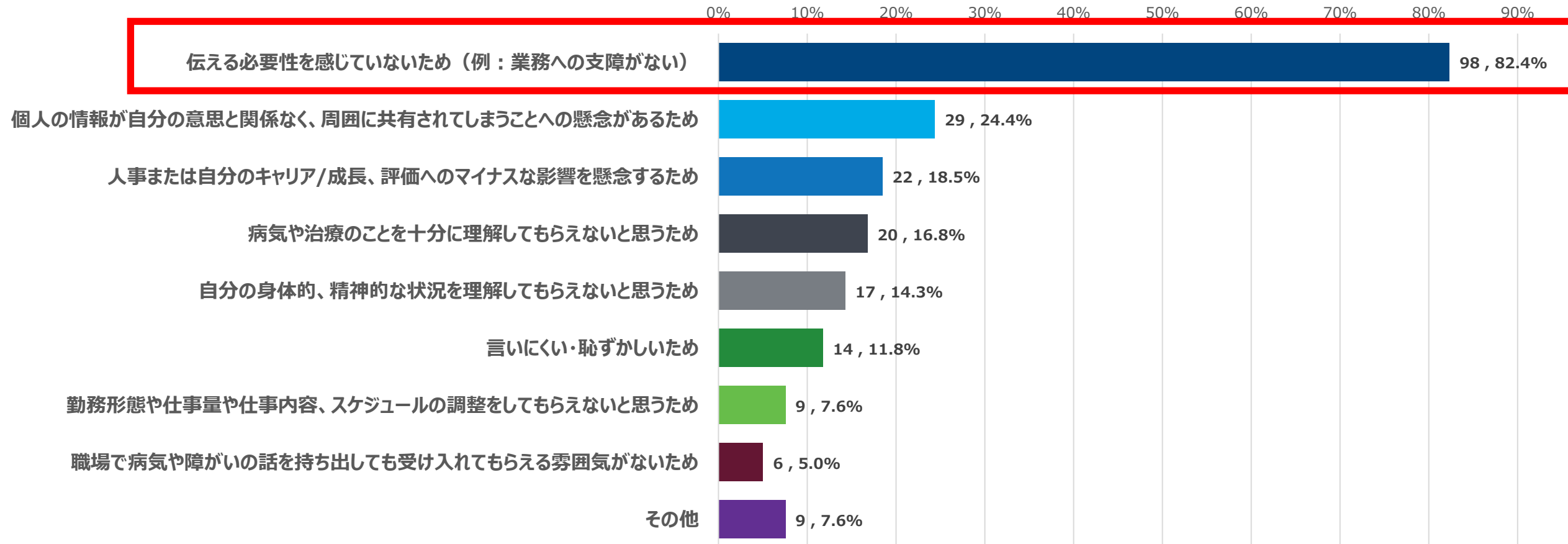
Q: あなたが職場の方（上司、同僚または人事など）に伝えたことで良かったことはありますか。以下の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）（n=239）



病気・障がいを職場に伝えていない理由

自分の病気または障がいを職場の方に伝えていない理由は、「自分の病気・障がいを職場に伝える必要性を感じない（82.4%）」が最も多い。

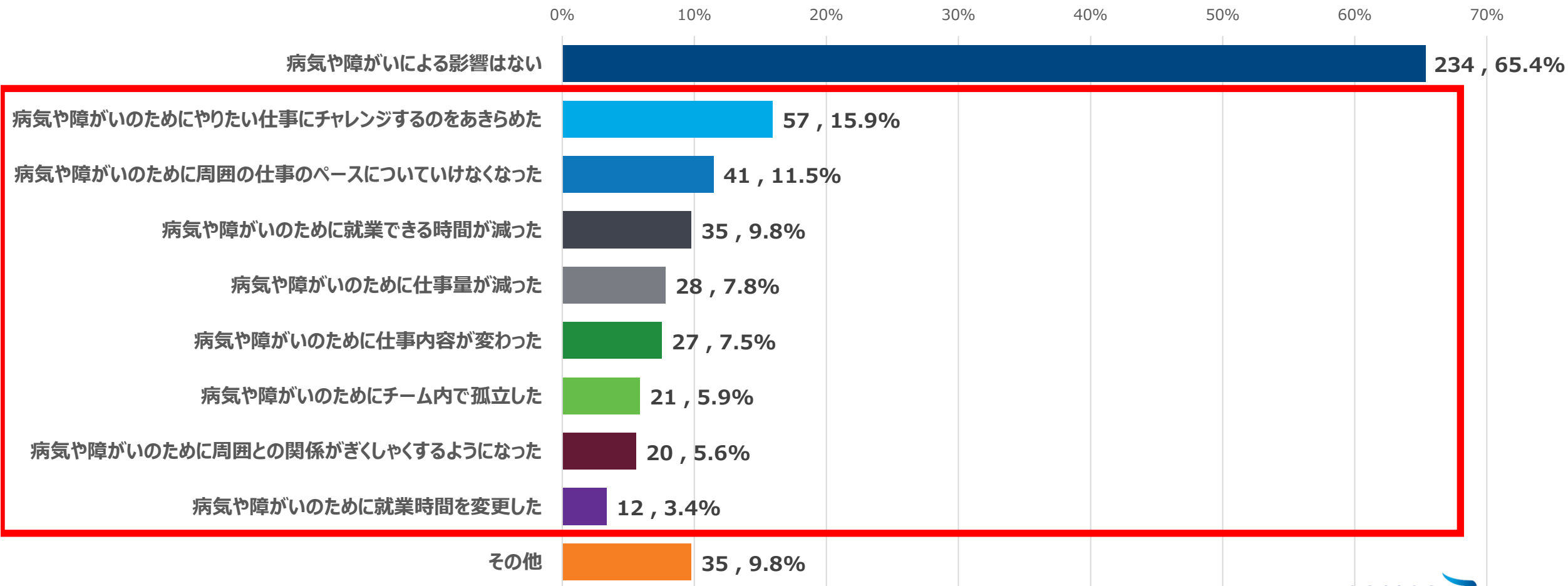
Q: あなたが職場の方（上司、同僚、または人事など）に伝えていない理由にはどのようなものがありますか。以下の中から当てはまるもの上位3つまでお答えください。（複数回答）（n=119）



病気・障がい仕事や周囲との関係に与える影響

病気または障がいがある人（358人）のうち、65.4%が「病気や障がいによる影響はない」と回答した一方、やりたい仕事にチャレンジすることを諦めたり、周囲の仕事のペースについていけなくなる等の影響があった人もいた。

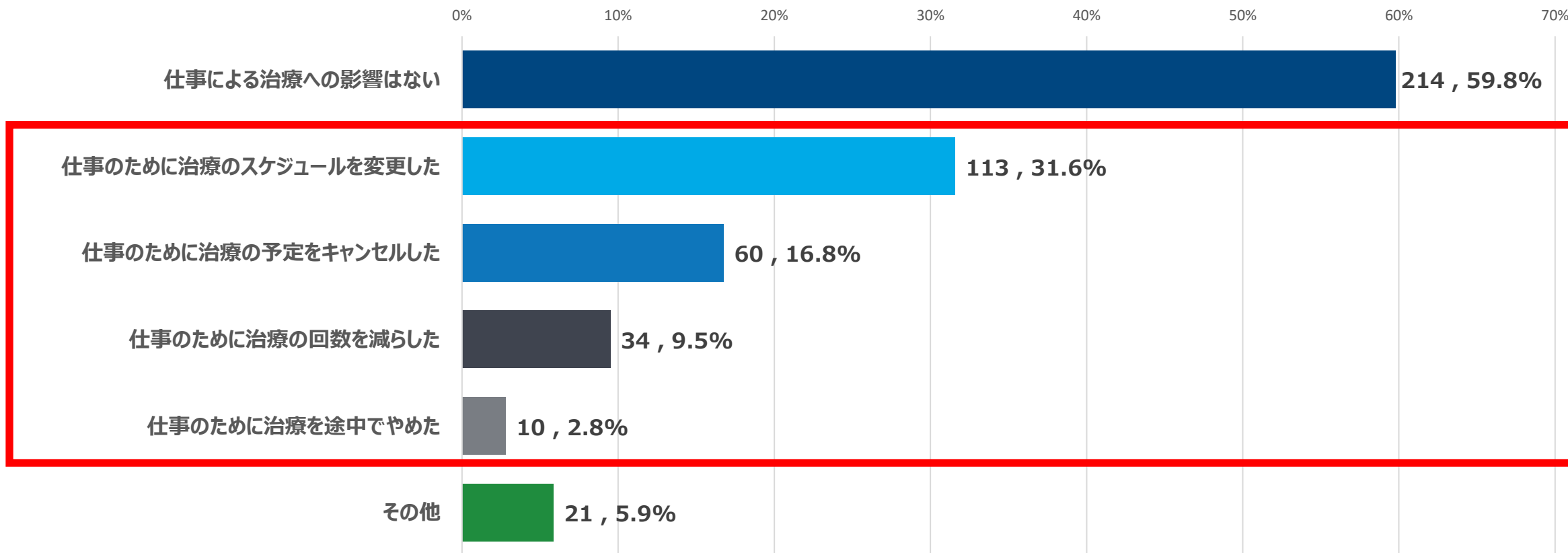
Q: 病気や障がい仕事や周囲との関係に与える影響について、以下の中から当てはまるものすべてお答えください。（複数回答）
(n=358)



仕事が生療に与える影響

病気または障がいがある人（358人）のうち、59.8%の人が「仕事による生療への影響はない」と回答した一方、「仕事のために生療スケジュールを変更した、予定をキャンセルした、生療の回数を減らした、生療を途中でやめた」と回答した人もいた。

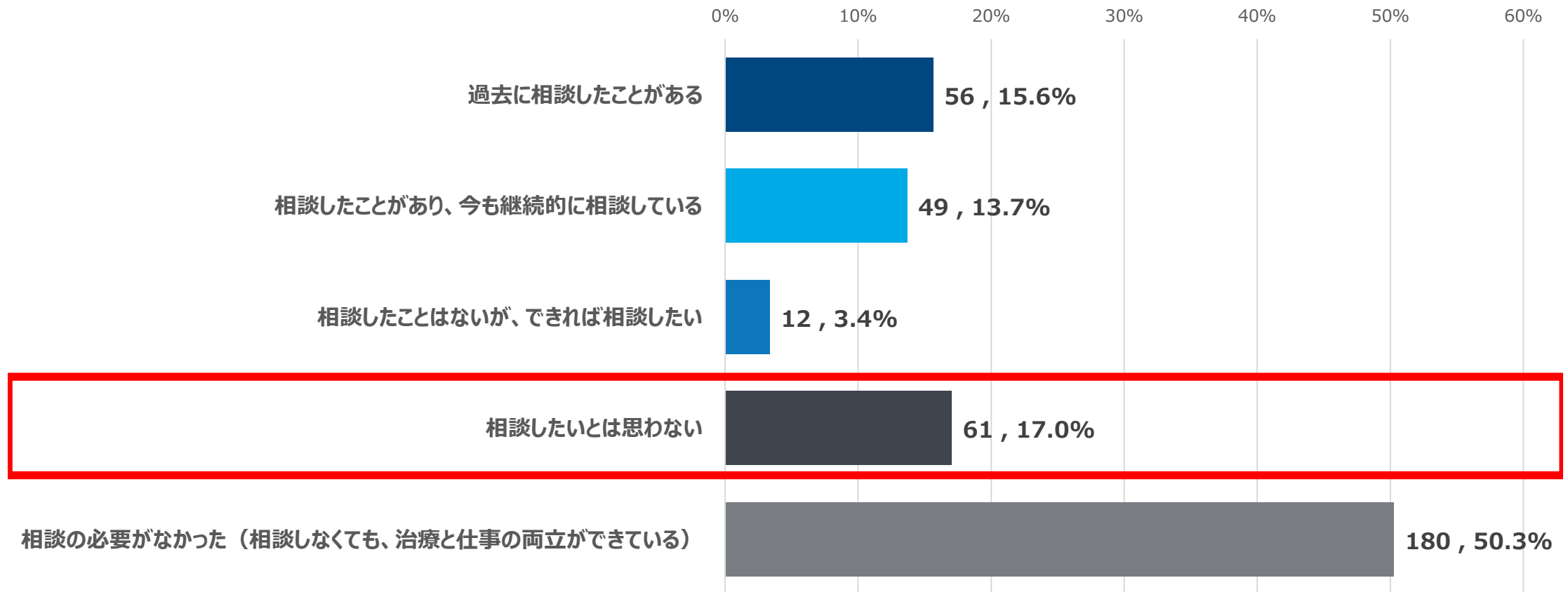
Q: 仕事が生療に与える影響について、以下の中から当てはまるものすべてお答えください。（複数回答）（n=358）



治療と仕事との両立に関する上司らへの相談

病気または障がいがある人（358人）のうち、半数の50.3%が「上司や同僚などに相談の必要がなかった（相談しなくても、治療と仕事の両立ができています）」と回答した一方、「相談したいと思わない」が17%もいた。

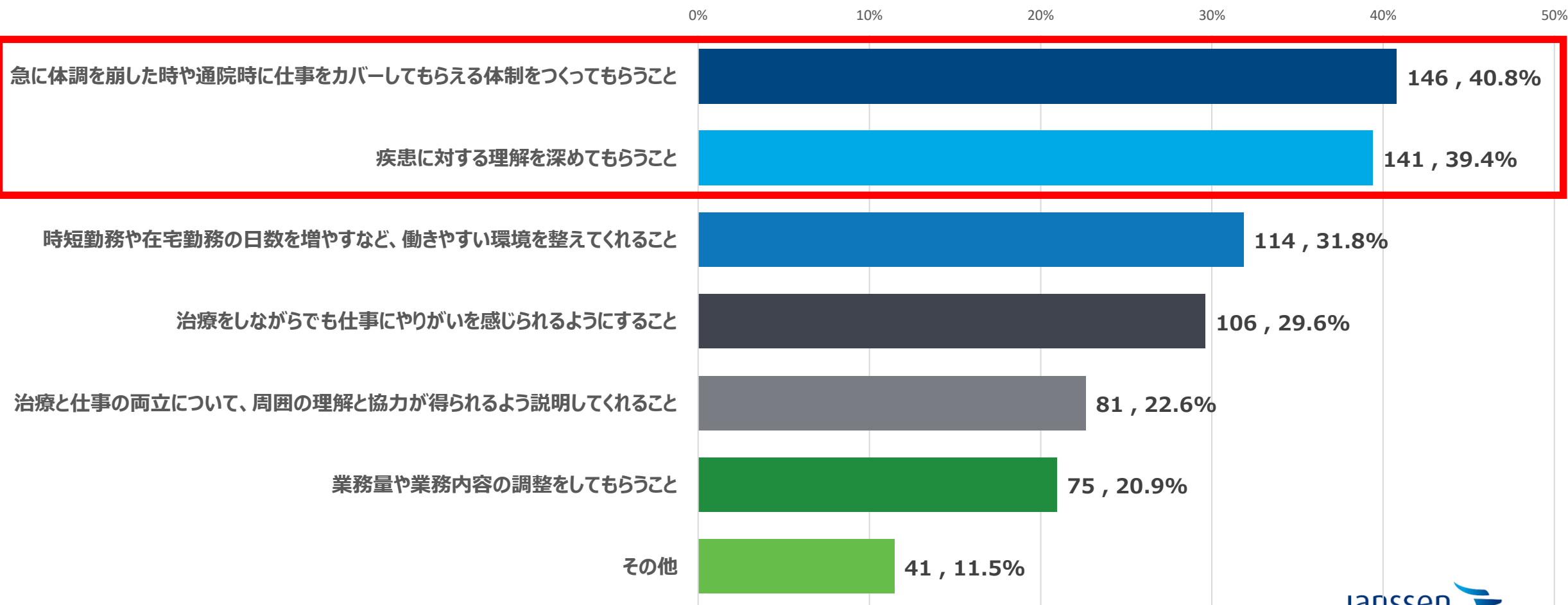
Q: 治療と仕事の両立を図りたいと、上司や同僚などに相談したことがありますか。（単一回答）（n=358）



上司、同僚らとのコミュニケーションで期待すること

上司や同僚とのコミュニケーションで期待することとして、約4割は「急に体調を崩した時や通院時に仕事をカバーしてもらえる体制をつくってもらふこと（40.8%）」や「疾患への理解を深めてもらうこと（39.4%）」と回答。

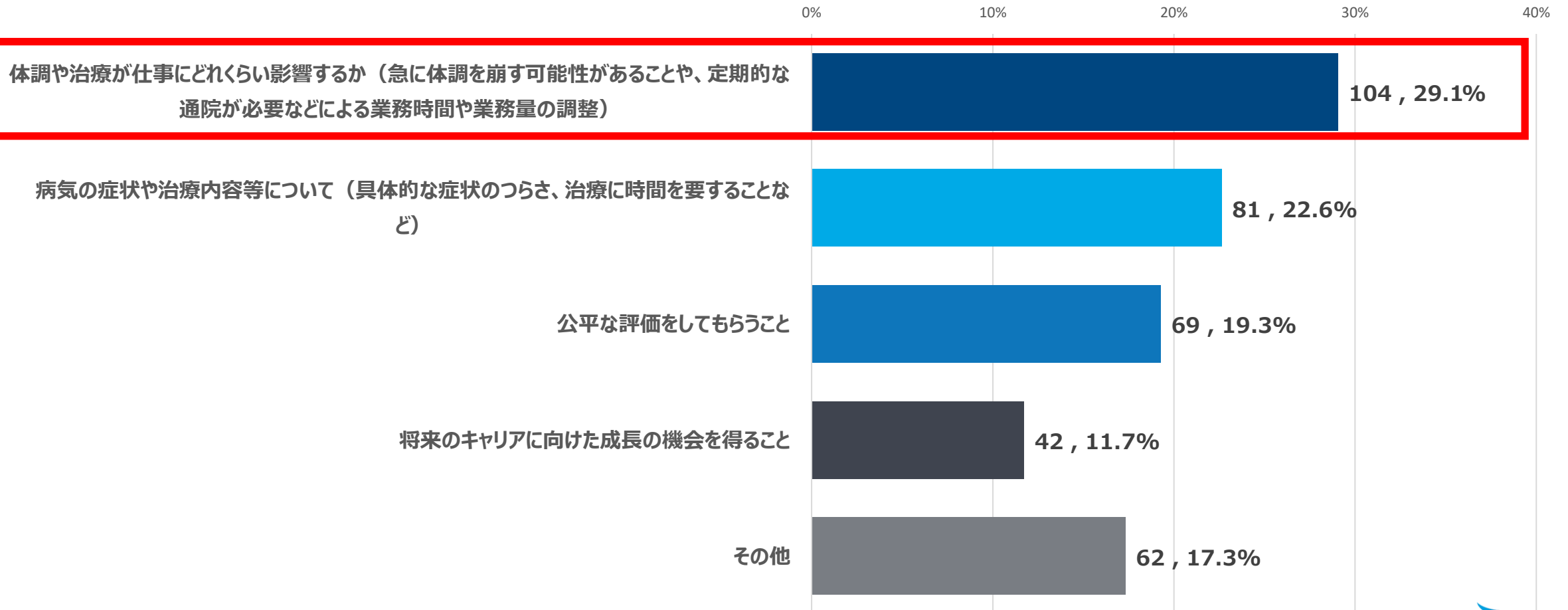
Q: 治療と仕事の両立を図るために、上司や同僚などとコミュニケーションをする上で、どのようなことを期待しますか？（もしくは期待していましたか？）以下の中から当てはまるもの上位2つまでお答えください。（複数回答）（n=358）



治療と仕事の両立について、理解してもらおうのが難しいこと

上司や同僚と話をする際、治療と仕事の両立に関し理解してもらおうことが難しい点として、最も多かったのは「体調や治療がどれくらい影響するか（29.1%）」で、次いで「病気の症状や治療内容等について（22.6%）」。

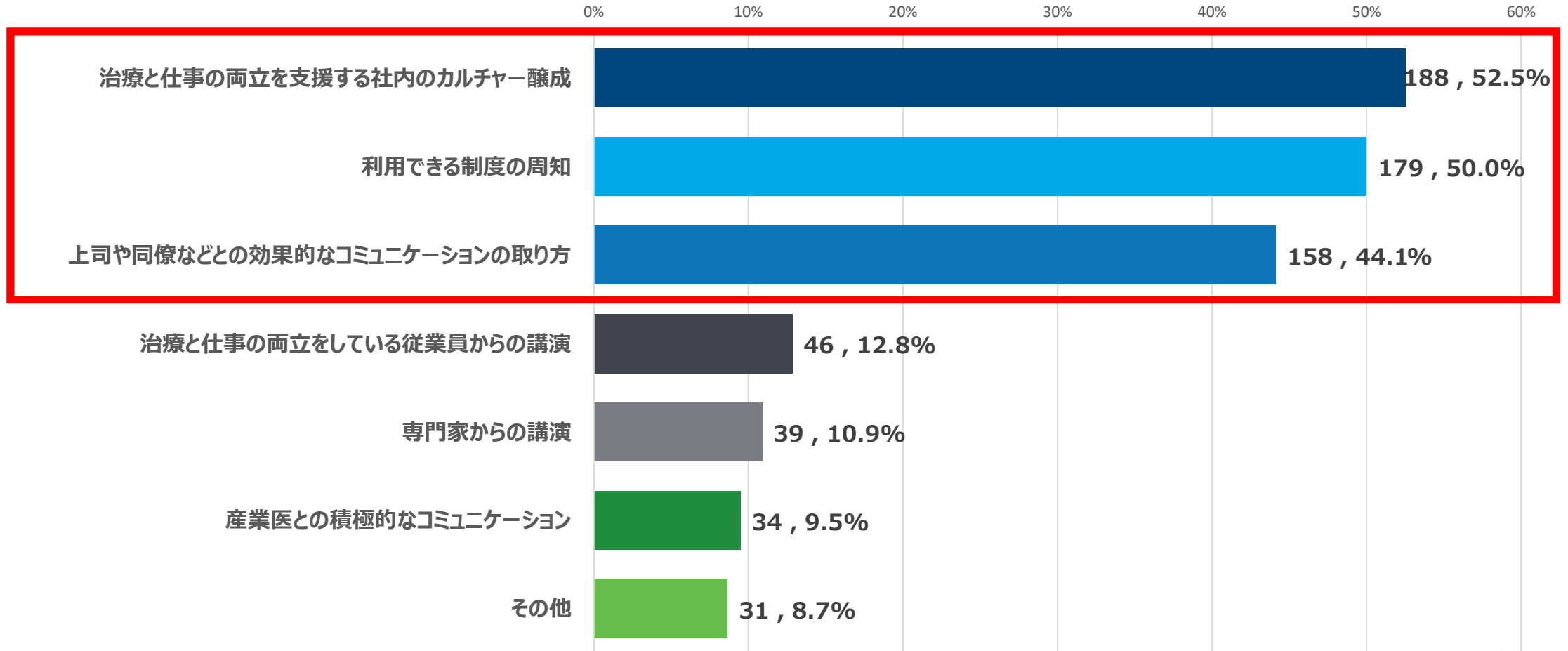
Q: 治療と仕事の両立について、上司や同僚と話をする際、どのような点を理解してもらおうことが最も難しいと感じましたか？
（もしくは難しいと思いますか？）（単一回答）（n=358）



治療と仕事の両立を図る上で必要な取り組み

治療と仕事の両立のため、積極的な取り組みが必要なこと上位3つは「治療・仕事を支援する社内カルチャー醸成（52.5%）」、「利用できる制度の周知（50.0%）」、「上司や同僚などとの効果的なコミュニケーションの取り方（44.1%）」。

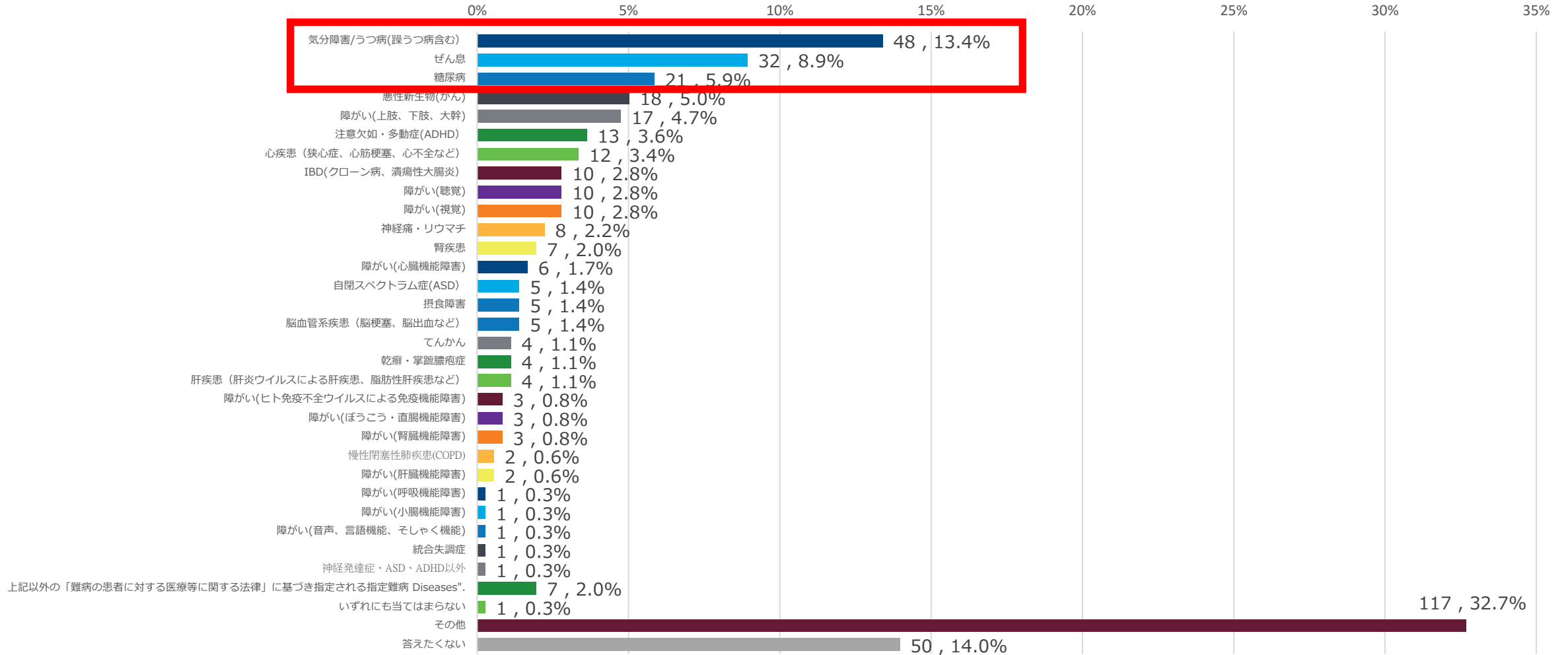
Q: 治療と仕事の両立を図るうえで、今後、積極的な取り組みが必要だと思われるものを以下の中から上位2つまで選んでください。（複数回答）（n=358）



病気・障がいの種類

病気・障がいの種類で多かったのは、「気分障害/うつ病（13.4%）」 「ぜん息（8.9%）」 「糖尿病（5.9%）」。

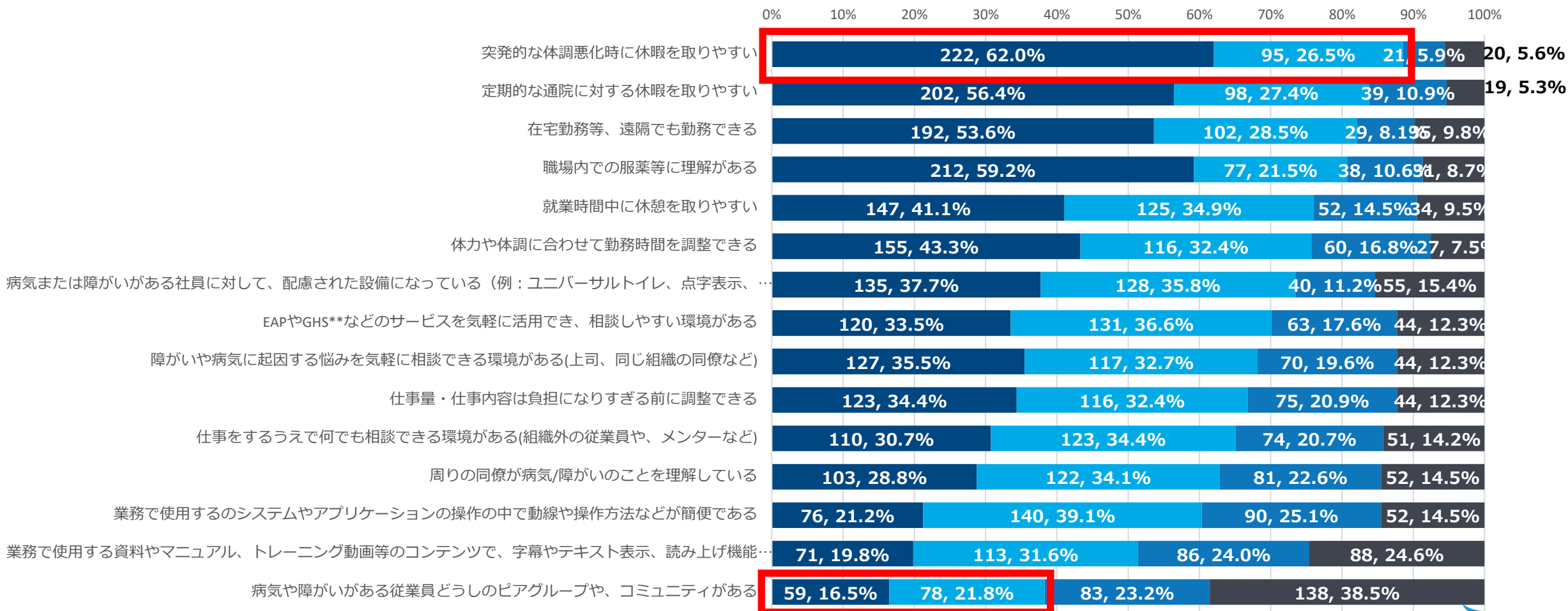
Q: あなたの病気または障がいについて当てはまるものをすべて教えてください。（複数回答）（n=358）



職場の理解や環境的配慮

現在の職場に関し当てはまる項目として、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計で最も多かったのは、「突発的な体調悪化時に休暇を取りやすい（88.5%）」で、逆に最も低かったのは「病気や障がいがある従業員どうしのピアグループや、コミュニティがある（38.3%）」。

Q:一般的に、障がいや病気の治療をしながら仕事を続けていくために、職場内で以下のような理解や環境的配慮がポイントとされています。以下の項目について、あなたの職場に当てはまるものをそれぞれお答えください。（各単一回答）（n=358）



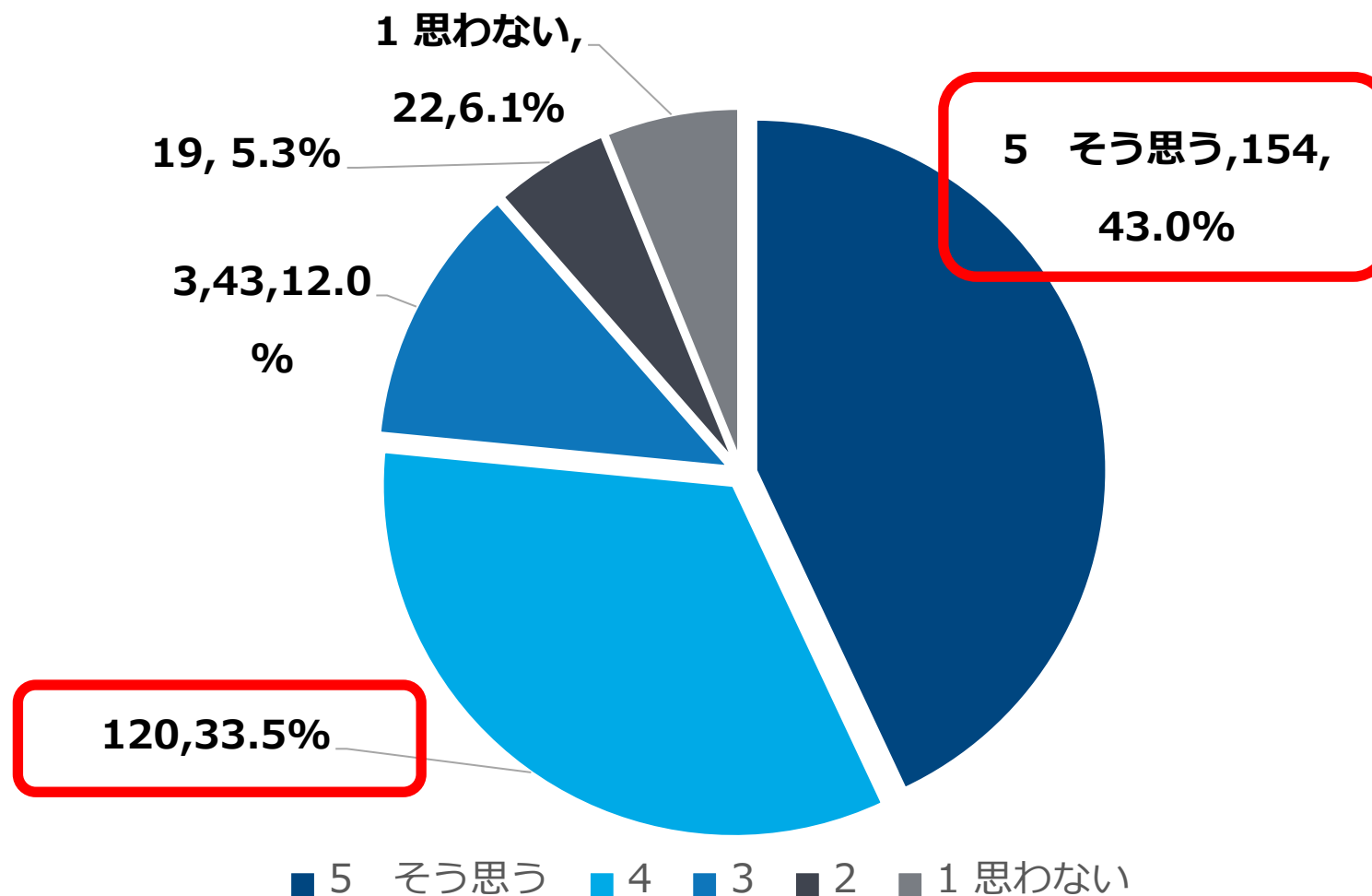
■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ ややあてはまらない ■ あてはまらない

**EAP (Employee Assistance Program):社員ご本人、そのご家族の方々を対象としたよろず相談窓口。GHS:グローバルヘルスサービス

治療と仕事を両立し、自分らしく働くことができているか

病気または障がいを持っている人（358人）のうち、自分らしく働けていると思っている人は「5 そう思う」と「4」を合わせて76.5%。

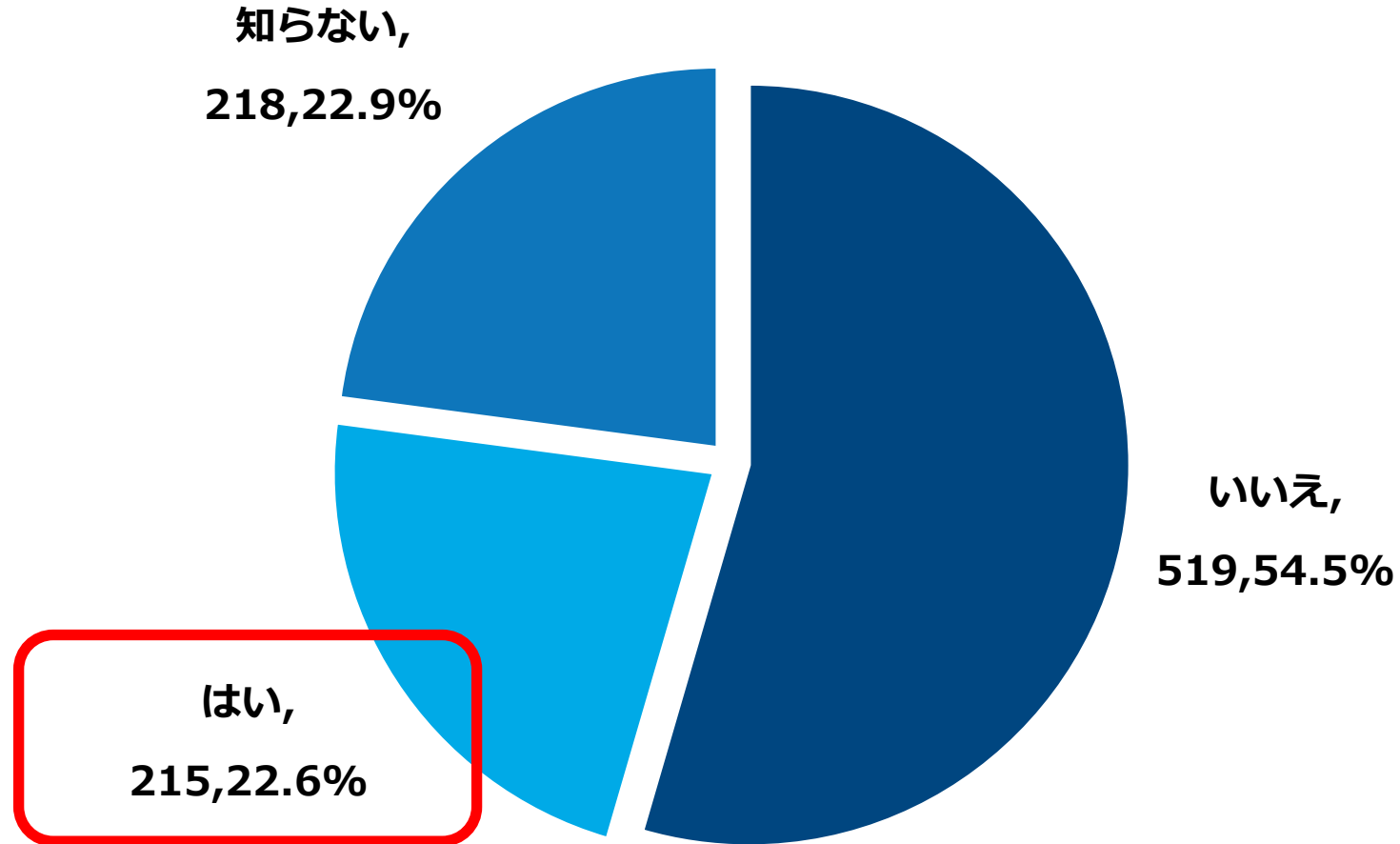
Q: あなたは、自分の障がいや病気と上手く付き合い（治療と仕事を両立し）、自分らしく働くことが実現できていると思いますか。
1（思わない）～5（そう思う）。（単一回答）（n=358）



周囲に病気または障がいのある人がいるか

自分の上司・部下または同僚に病気または障がいがある方がいる人は、22.6%。

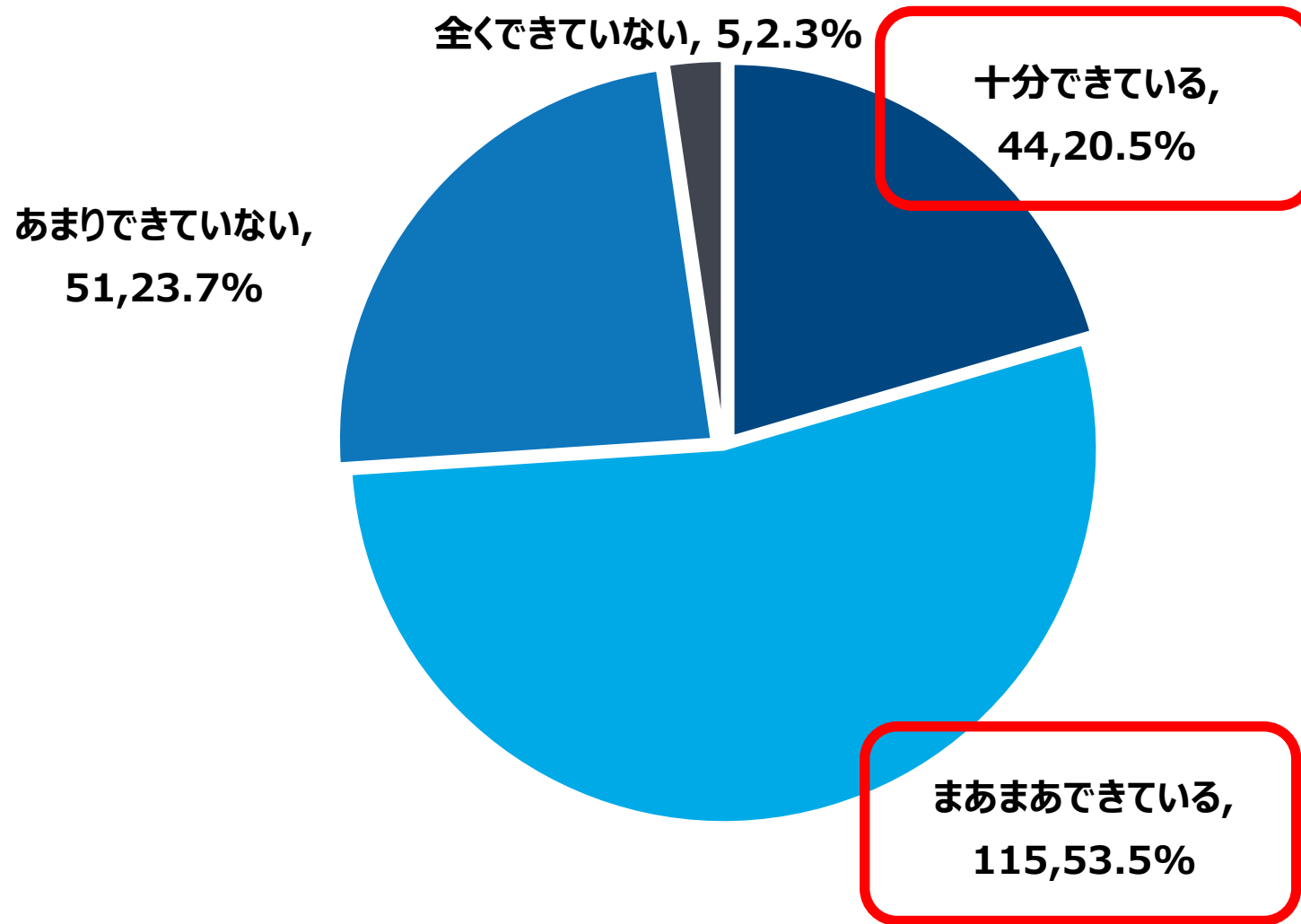
Q: あなたの上司・部下または同僚に病気または障がいのある方がいますか。(単一回答) (n=952)



病気または障がいのある人に対するサポートと配慮

自分の上司・部下または同僚に病気または障がいがある人がいると答えた人（215人）のうち、サポート・配慮ができていると感じているのは、「十分できている（20.5%）」と「まあまあできている（53.5%）」を合わせ、74.0%。

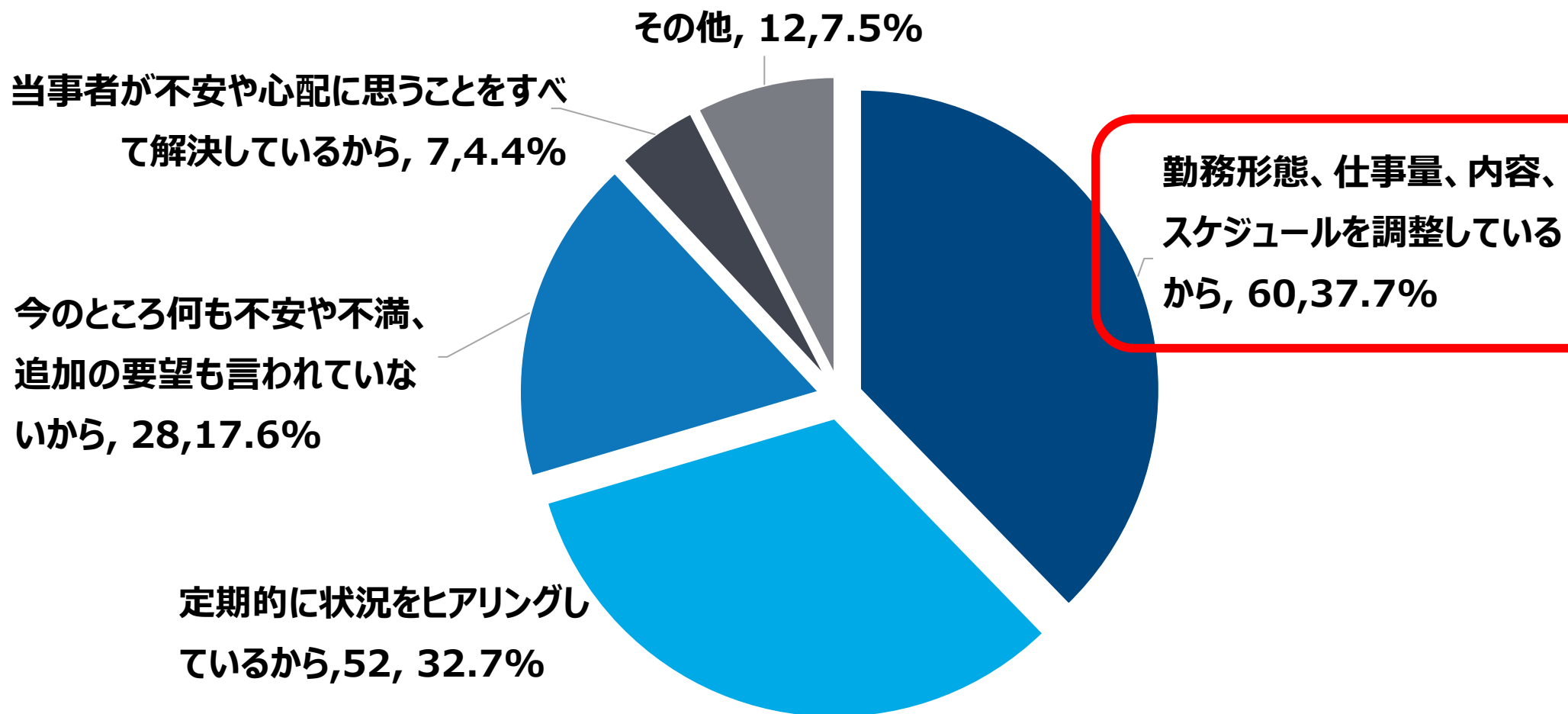
Q: あなたはその病気または障がいのある方に十分なサポート・配慮ができていると思いますか。（単一回答）（n=215）



病気または障がいのある人に対してサポートできている理由

病気または障がいのある人をサポートできていると思う理由で最も多かったのは、「勤務形態、仕事量、内容、スケジュールを調整しているから（37.7%）」。

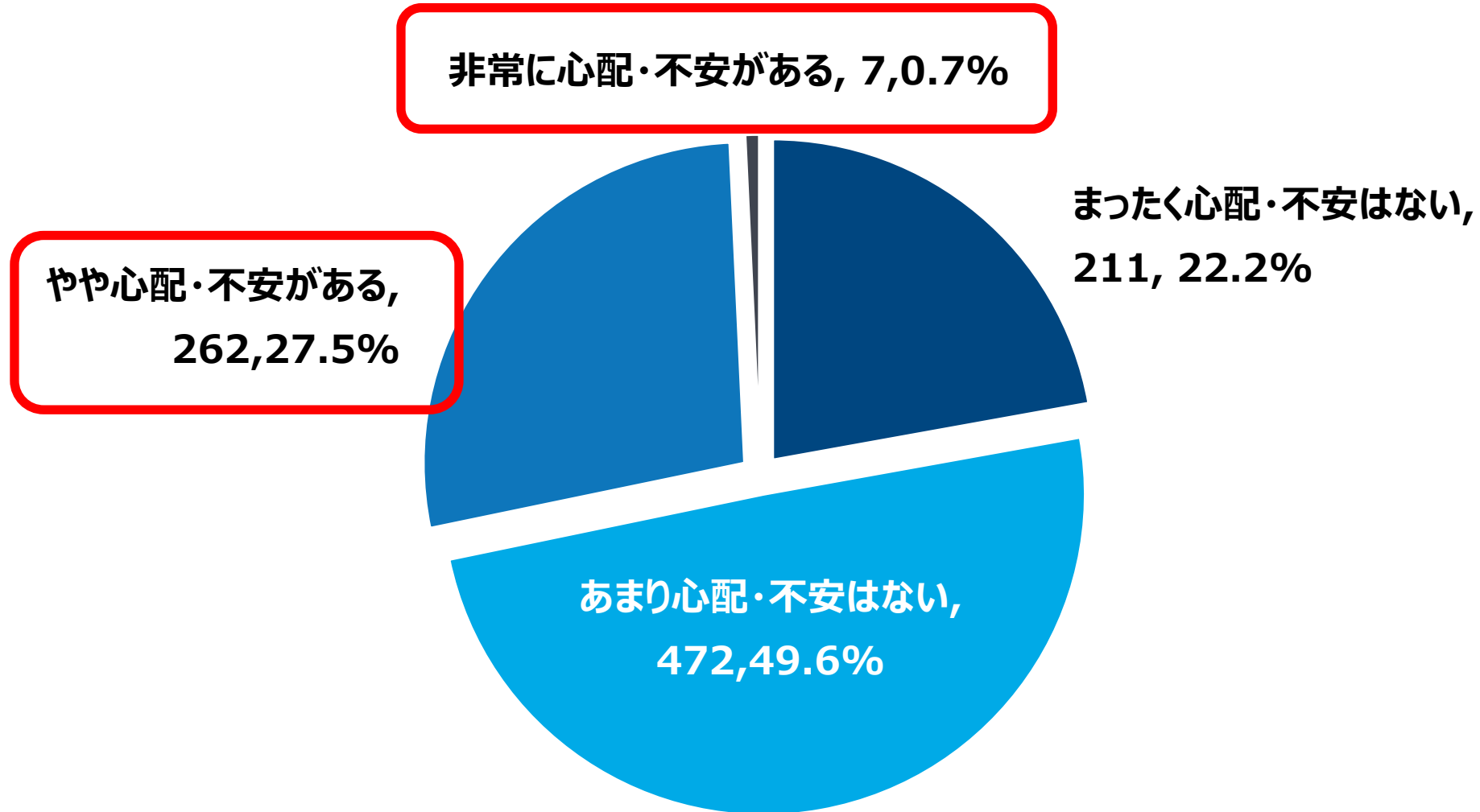
Q: 十分にサポートができていると思う理由で、もっとも当てはまるものを1つ選んでください。（単一回答）（n=159）



病気または障がいのある人と一緒に働くことへの心配・不安

病気または障がいがある方と一緒に働くことに対し、「やや心配・不安がある（27.5%）」と「非常に心配・不安がある（0.7%）」と回答した人は合わせて28.2%。

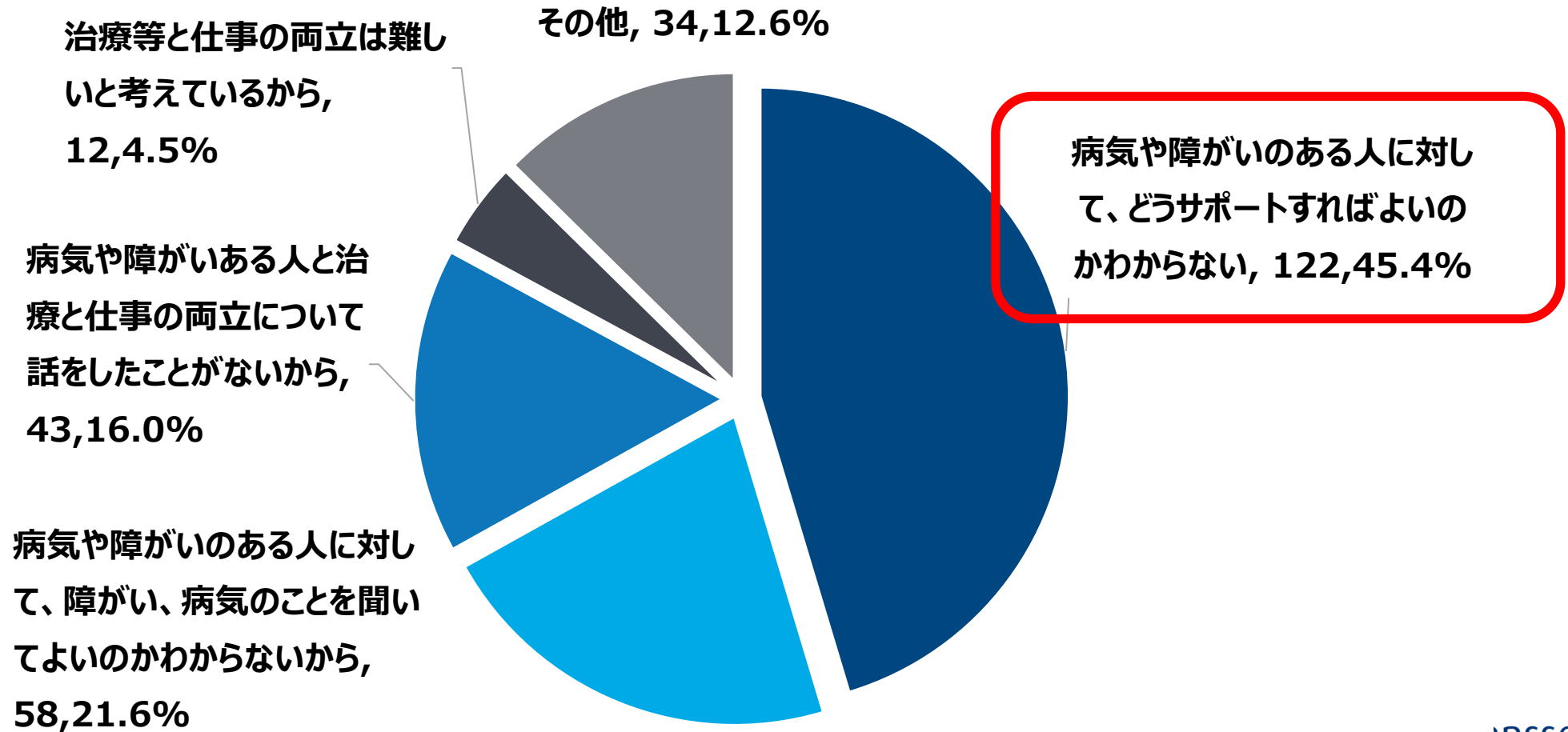
Q: 病気または障がいのある方と一緒に働くことについて、あなたはどのように感じますか。（単一回答）（n=952）



病気または障がいがある人と一緒に働くことに心配・不安を感じる理由

病気または障がいのある人と一緒に働くことについて心配や不安を感じる人（269人）のうち、45.4%の人が「病気や障がいのある人に対して、どうサポートすればよいのか分からない」と回答。

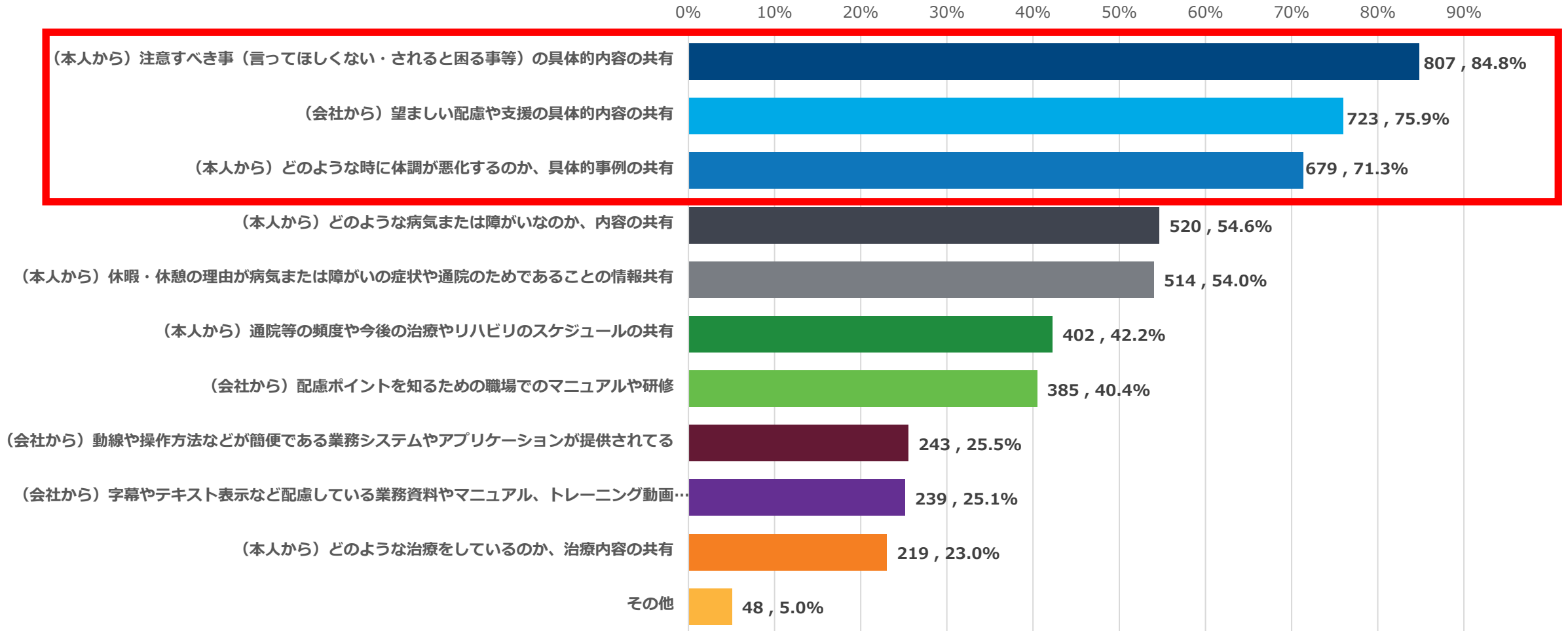
Q:病気または障がいのある方と一緒に働くことについて「非常に心配・不安がある」、「やや心配・不安がある」と回答した人で、一緒に働く同僚やチームメンバーに対し、配慮やサポートができていない・心配や不安がある理由は何ですか。（単一回答）（n=269）



病気または障がいのある方と働く際にあると望ましいこと

病気または障がいのある人とともに働く際、あると望ましいことの上位3つは、「（本人から）注意すべき事（言ってほしくない・されると困る事等）の具体的内容の共有（84.8%）」 「（会社から）望ましい配慮や支援の具体的内容の共有（75.9%）」 「（本人から）どのような時に体調が悪化するのか、具体的事例の共有（71.3%）」。

Q: あなたの職場で、病気または障がいのある方が働いている場合、どのようなことがあると共に働きやすくなると思いますか。以下の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）（n=952）



病気または障がいの治療しながら働くための職場での理解・環境的配慮

障がいや病気の治療をしながら仕事を続けていくための職場での理解・環境的配慮で当てはまるものとして、約8割が「定期的な通院に対する休暇を取りやすい（80.0%）」、「突発的な体調悪化時に休暇を取りやすい（78.8%）」と回答。

Q: 一般的に、障がいや病気の治療*をしながら仕事を続けていくために、職場内で以下のような理解や環境的配慮がポイントとされています。以下の項目について、あなたの環境に当てはまるものをすべてお答えください。（単一回答）（n=952）

定期的な通院に対する休暇を取りやすい	762 (80.0%)
突発的な体調悪化時に休暇を取りやすい	750 (78.8%)
在宅勤務等、遠隔でも勤務できる	658 (69.1%)
体力や体調に合わせて勤務時間を調整できる	648 (68.1%)
就業時間中に休憩を取りやすい	640 (67.2%)
職場内での服薬等に理解がある	601 (63.1%)
障がいや病気に起因する悩みを気軽に相談しやすい環境がある(上司、同じ組織の同僚など)	514 (54.0%)
仕事量・仕事内容は負担になりすぎる前に調整できる	509 (53.5%)
周りの同僚が病気/障がいのことを理解している	422 (44.3%)
仕事をするうえで何でも相談できる環境がある(組織外の従業員や、メンターなど)	414 (43.5%)
EAPやGHS**などのサービスを気軽に相談しやすい環境がある	384 (40.3%)
病気または障がいがある社員に対して、配慮された設備になっている (例：ユニバーサルトイレ、点字表示、エレベーターなど)	380 (39.9%)
業務で使用する資料やマニュアル、トレーニング動画等のコンテンツで、字幕やテキスト表示、読み上げ機能や対応テキストなどの配慮がなされている	221(23.2%)
業務で使用するのシステムやアプリケーションの操作の中で動線や操作方法などが簡便である	211 (22.2%)
持病や障がいがある従業員どうしのピアグループや、コミュニティがある	191 (20.1%)
その他	19 (2.0%)

*ここでは、病気を治したり、病気による症状を軽減させるための行為、通院やリハビリテーション等も含まれます。

J&Jは病気または障がいのある社員が自分らしく働くことをサポートしているか

J&Jは病気・障がいがある社員が自分の症状と上手に付き合い、自分らしく働くことの実現を推進・サポートしていると回答した人は、「5 と思う (23.6%)」と「4 (34.2%)」で合わせて、57.8%が高評価。

Q: J&Jは、病気や障がいのある社員が自分の症状と上手に付き合い、自分らしく働くことの実現を推進・サポートをしていると思いますか。1 (思わない) ~ 5 (と思う) (単一回答) (n=1,310)

